琉球大学学術リポジトリ

宮古高校と八重山高校での出前講義を担当して

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学大学教育センター
	公開日: 2018-07-17
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 石原, 昌英, Ishihara, Masahide
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/41686

宮古高校と八重山高校での出前講義を担当して

石 原 昌 英（法文学部）

大学教育センターが実施した先島地区（宮古島市及び石垣市）での出前講義を担当した。宮古高校では「自分の視野をいかに広げるか—留学の勧め—」というテーマで八重山高校では「英語らしい英語の発音—日本語との比較から—」というテーマで１・２年生を対象に話をした。この出前講義のきっかけは本学出身で大学時代に私の授業を受講した英語教員が両校で教鞭を執っていたことである。二人とも私が本学に赴任した1992年に入学したので私にとっては最初の「教え子」であった。宮古高校では「教え子」が５名もいて、その中には米国留学経験がいたので「留学」をテーマとした。特別授業として実施した出前講義では彼・彼女らの協力を得た。一方、八重山高校では「教え子」２名と出前講義の内容を事前に打ち合わせをして、高校生が英語に関して興味を持つテーマとして「英語の発音」を選んだ。

宮古高校での出前講義の内容は本学の「教養特別講義Ⅰ（大学で何を学ぶか）」で世話役としてのまとめの授業で学生に講義したものを高校生向けに修正したものであった（詳しくは資料１を参照）。宮古高校生の身近な話として筆者の友人で同高校出身の来間清人氏を紹介した。同氏は本学農学部を卒業後米国のヴァージニア工科大学で博士号を取得し、米国立衛生研究所（National Institute of Health）で遺伝子の研究をしているので、海外留学をとおして自らの視野と可能性を広げた者の一例として取り上げた。また、筆者自身は大学時代に交換留学生としてミシガン州立大学で学び、アリゾナ大学で博士号を取得したので、米国の大学生と日本の大学生の違いや二度の留学で学んだことが自らの視野と可能性をどのように広げたのかを話した。

さらに、筆者は国頭村奥といういわゆる僻地の出身であるが、過疎の地域に於ける「学び」の方法と可能性についても話をした。

八重山高校での出前講義を受講した高校生は英語に関心があると聞いていたので、高校の授業で教えられることが少ない発音をテーマとした。内容は本学国際言語文化学科の「英語の発音」や沖縄キリスト教短期大学で担当した「英語音声学」の授業内容を凝縮したものであった（詳しくは資料２を参照）。ここでは筆者のミシガン州立大学留学中の苦い経験を紹介し、発音の大切さを話した。次に英語と日本語の音声の差異についてふれ、日本人が苦労する英語音声の発音についてどのようにしたら「英語らしく」発音できるようなるのかを英語音声学の観点から話をした。さらに、日本の英語教育においてあまり教えられることがない音節と発音、ストレスとリズム、文強勢とイントネーションについて具体例を示しながら話をした。何日か後に受講生からの感想が送られてきたが、筆者が意図していた目標は達成できたようであった。

宮古高校と八重山高校での出前講義では担当してくださった先生方から大学教員の話を聞く機会が滅多にないので高校生が非常に楽しみにしていたと同時に緊張していたことを聞いた。八重山高校での講義では高校教員との事前協議を通して高校で教えられることは少ないが、重要性があるものを前もって把握し、それをわかりやすく話した（つもりである。）願わくは受講生の多くが本学に進学してほしいものである。

先島地区での出前講義は前述のように「教え子」ネットワークが活用できた。このような「縁」はおおいに利用すべきであろう。ただし、大学教員としてはお願いする側である

ので押しつけとなってはいけない。今回の出前講義では、高校で授業することが、付随的に本学卒業生の活躍をかいま見、自らの教育の成果を確認する機会でもあることを確認した。

資料1

自分の視野をいかに広げるか—留学の勧め—

琉球大学
法文学部国際言語文化学科
石　原　昌　英

I.　始めに、自己紹介を兼ねて

II.　視野を広げるには

1）批判力（≠批難力）を養成する。：問題（とその解決方法）を見つける力を養成する
疑問を持つ。：ロジック（論理）・複眼的思考（物事を多方面から見る）・思考方法（例えば：分析　⇒　仮説　⇒　検証）を習得する。関連性を持たせる（見つける）。

2）コミュニケーション力（読む、書く、聞く、話す）を養成する。
質問力：わからないことをわからないままにしない。「くだらない質問」はない。
プレゼンテーション力（話す、書く）：論理的に話す。何を伝えたいか（何を知ってほしいか）を明確にする。
聞く力：批判的に聞く。相手の立場になって聞く。自分ならどうする。

3）語学力をつける　（視野を広げる）。
一つの外国語の運用能力を磨くか、それとも二つの外国語を学ぶか。
自分の将来にとり、どの外国語を学ぶことが望ましいのか。

4）留学の勧め（外に目を向ける）
米国での経験：琉球大学の留学制度：来間清人博士の活躍

III.　なぜ視野を広げるのか

1）決断する力を養成する。
自ら判断する（できる）こと。⇐複眼的思考、戦略的思考、ロジカル（クリティカル）シンキング

2）発見の喜び（知的興奮）を体験する。

IV.　大学進学に向けて

資料２

英語らしい英語の発音
―日本語との比較から―

琉　球　大　学　法　文　学　部
国際言語文化学科言語情報科学専攻
石　原　昌　英

I. 発音とは

１．音声の発音：母音、子音

２．音節

３．ストレス・リズム

４．語のまとまり

５．イントネーション

II. 言語音の日英語比較

１．母音：日本語は５個の母音、英語は１４～１６個の母音

特に気をつけるところは、日本語/あ/に対応する母音が英語では４～５個あること。

※アメリカ留学中にマクドナルドでビックマックが注文できなかった。

２．子音：英語には日本語にはない子音が多い

英語には日本語にはない子音と母音の組み合わせがある。

/yes/:/yeast/ /ear/:/year/　/we/:/wood/:/wed/

※子音の発音練習方法のひとつ

英語の子音と日本語の母音を合わせて、「５０音」を繰り返す。

※子音や母音の発音は環境に応じて変化する

/pie/:/spy/:/tip/

/light/:/milk/

/seed/:/seat/

/tend/:/tent/

III. 音節

１．子音（C）と母音（V）組み合わせ：母音を中心とした音声の集まり。

一母音/一音節（One syllable, one vowel）

V, CV, CVV,　VC,　CVC, CVCC,

２．日英語の音節構造の差異

日本語：基本的に CV、子音の後には母音がある。

英語：CVC も可能

※この構造上の差異は日本人の英語の発音に大きな影響を与える。

英語は子音で終わる単語（例、/bed/, /cap/）や、母音の前に CC がおこる単語（例、/black/, /snake/）がある。➪日本人が発音すると・・・

※英語らしい発音にするには、英語にはない子音の後の母音を入れない

/ブラック/ ≠ /black/

IV. ストレスとリズム

1．英語と日本語はアクセントが違う。

英語：ストレスアクセント（音の強弱で差違を出す。）

日本語：ピッチアクセント（音の高低で差違を出す。）

2．英語と日本語はリズムが違う

英語のリズム：モールス信号のリズム（強弱がある）

日本語のリズム：機関銃のリズム（強弱がない）

※文の発音において、すべての単語をはっきり、強く発音する必要はない。強く発音される語と弱く発音される語の区別をつける。日本人にはこの区別は難しい。

※日本語は拍（モラ）、英語は音節がアクセント（リズム）の基盤

tombo を手拍子で表すと・・・

3．英語の文の発音において強く発音する語と弱く発音する語

強く発音する語：内容語

名詞、動詞、形容詞、副詞

弱く発音する語：機能語

助動詞、代名詞、前置詞、冠詞

4．機能語の弱形と強形

He can play the piano. He can't play the piano, but he can play the guitar.
I will do it as much as I can.

I have been reading the book for three hours.

Have you been to Hawai'i? Yes, I have.

She is a teacher. She is a teacher.

I like him. I like him.

He cut himself. He did it himself.

I put it on the desk. I put it on the bed, not under the bed.

He put it on.　I gave up reading this book.

This is a pen.　This is what I meant.

V.　語のまとまり

英語ではいくつかの単語がまとまって一つの語のように発音される。その際、内容語を中心にして、その周りに機能語がある。

※それぞれの単語をはっきり、強く発音しない。

I will check it out.　I like him.　Not at all.

I will meet him in front of the library.

VI.　イントネーション

文の機能（平叙文、疑問文）はイントネーションが決定する。発話（音声）には疑問符（？）はない！

Yes.　はい。

平叙文のイントネーション

Yes-No 疑問文のイントネーション

Wh 疑問文のイントネーション

日本人の会話

A：「読んだ」

B:「読んだ」